

愛媛労災病院  
公的医療機関等2025プラン

平成29年11月 策定

【愛媛労災病院の基本情報】

医療機関名：愛媛労災病院

開設主体：独立行政法人労働者健康安全機構

所在地：愛媛県新居浜市南小松原町13-27

許可病床数：300床

稼働病床数：212床

(病床の種別)	ICU	4床
	一般病棟(7対1)	170床
	地域包括ケア病棟	38床

診療科目：20科目

内科、精神科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、  
整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、  
産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、  
麻酔科、歯科口腔外科

職員数(平成29年11月1日現在)：333名

- ・ 医師 26名
- ・ 看護職員 192名
- ・ 専門職 59名
- ・ 事務職員 47名
- ・ 技能業務職 9名

地域医療における役割

- ・ 二次救急医療機関(新居浜市 病院群輪番制参加医療機関)
- ・ 愛媛県がん診療連携推進病院
- ・ 臨床研修指定病院

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

#### <地域の人口及び高齢化の推移>

新居浜・西条構想区域の人口は2010年の233,826人から2025年には211,721人（▲22,105人、▲9.5%、2040年には183,676人（▲50,150人、▲21.4%）になると推計されている。また、受療率が高く、一人当たりの医療費が高い75歳以上の後期高齢者は、2010年の33,547人（14.3%）から2025年には43,523人（20.6%）に増加すると推計されている。【表1】

【表1】

（単位：人）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	233,826	227,783	220,332	211,721	202,607	193,222	183,676
0～14歳	31,853	29,809	27,482	24,864	22,635	21,200	20,285
15～64歳	138,915	127,990	120,625	115,703	110,397	104,575	95,653
65歳以上	63,059	69,984	72,225	71,154	69,575	67,447	67,738
（再掲）75歳以上	33,547	36,046	38,543	43,523	44,532	42,978	41,187

（出典：愛媛県地域医療構想（新居浜・西条構想区域））

#### <構想区域の人口10万人当たり医療施設従事医師数>

医師の減少・高齢化が顕著になっている。2012年末時点における構想区域の人口10万人当たり医療施設従事医師数は196.6人であり、県平均（244.1人）や全国平均（226.5人）を下回っており、松山構想区域（311.0人）の6割程度となっている。

#### <構想区域の医療提供体制/医療需要の特性>

- ・新居浜・西条構想区域では、基準病床数2,272床に対して既存病床数が3,049床と過剰病床となっている。【表2】
- ・2025年の医療需要は1,996人/日、必要病床数は2,347床と推計されている。【表3、表4】
- ・2014年7月1日現在の病床機能報告では、急性期病床が1,821床と必要病床数826床より大幅に超過している。また、回復期については不足し、特に高度急性期機能は構想区域内で完結できる状況にない。【表5】

【表2】 基準病床及び既存病床数（新居浜・西条医療圏）

基準病床数	2,272床
既存病床数	3,049床

（出典：第6次愛媛県地域保健医療計画（平成25年1月31日現在））

表3】 2025年の医療需要

（単位：人/日）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	在宅等
147	644	609	596	1,996	3,425

（出典：愛媛県地域医療構想（新居浜・西条構想区域））

【表4】 2025年の必要病床数

（単位：床）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
196	826	677	648	2,347

（出典：愛媛県地域医療構想（新居浜・西条構想区域））

【表5】 病床機能報告（2014年7月1日現在）

（単位：床）

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答	合計
10	1,821	146	947	202	3,126

＜在宅医療等の医療需要＞

- ・ 構想区域における2025年の在宅医療等の医療需要は、3,425人/日と推計され、2013年の2,627人/日と比べ、約800人/日増えることとなる。
- ・ 構想区域における病院・診療所以外で医療を受ける者が療養生活を営むことができる施設の定員は3,128人（2015年12月現在）、在宅療養支援診療所は22施設（2015年12月現在）となっている。

＜2025年 疾病別の医療需要に対する医療供給状況＞

構想区域内に住所のある患者のうち、高度急性期の20.3%、急性期の11.8%、回復期の12.8%は松山構想区域に流出している。特に「がん」は、高度急性期の43.8%、急性期の34.8%、回復期の33.4%が松山構想区域に流出しており、他の疾患に比べ松山構想区域の医療機関への依存度が高くなっている。

2025年 疾患別の医療需要に対する医療供給状況 【全疾患】

医療機関所在地		宇摩			新居浜・西条			今治			松山		
		高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期
新居浜・西条	(%)	0.2	0.2	0.8	73.5	84.0	81.8	2.3	1.8	2.4	20.3	11.8	12.8
	(人/日)	0.4	1.3	4.9	130.8	540.0	499.1	4.1	11.6	14.6	36.1	75.9	78.1

医療機関所在地		大洲・八幡浜			宇和島			県外等			全構想区域 計		
		高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期
新居浜・西条	(%)	0	0	0	0.3	0.1	0.1	3.4	2.1	2.1	—	—	—
	(人/日)	0	0	0	0	0.6	0.6	6.1	13.5	12.8	178	642.9	610.1

（出典：新居浜・西条構想区域 地域医療構想調整会議 平成27年度 第2回会議 参考資料）

2025年 疾患別の医療需要に対する医療供給状況 【がん】

医療機関所在地		宇摩			新居浜・西条			今治			松山		
		高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期
新居浜・西条	(%)	0.2	0.1	0.1	50.3	60.5	61.9	1.5	1.7	1.5	43.8	34.8	33.4
	(人/日)	0.1	0.1	0.1	20.0	57.9	48.3	0.6	1.6	1.2	17.4	33.3	26.1

医療機関所在地		大洲・八幡浜			宇和島			県外等			全構想区域 計		
		高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期	高度急性期	急性期	回復期
新居浜・西条	(%)	0	0	0	0.1	0.1	0.2	4.1	2.8	2.9	—	—	—
	(人/日)	0	0	0	0	0.1	0.2	1.6	2.7	2.3	39.7	95.7	78.0

（出典：（出典：新居浜・西条構想区域 地域医療構想調整会議 平成27年度 第2回会議 参考資料）

② 構想区域の課題

- 医師不足の解消、他の医療従事者の安定的確保・定着。
- 不足する高度急性期及び回復期の病床機能の充実、回復期病床の確保とリハビリテーション機能の強化。
- 急性期及び慢性期の病床、稼働していない病床の不足している医療機能への転換を含めた対応。
- 救急医療（一次、二次、三次とも）の充実強化。
- 小児医療(救急を含む)や周産期医療の充実。
- 他の構想区域の医療機関への依存度が高いがん医療については、地域の医療提供体制の充実を図り、急性期及び回復期における地域完結を目指すこと。
- 在宅医療等の提供体制が量的不足、在宅復帰に向けた切れ目ない提供体制の確保。
- 在宅療養者等に対する口腔健康管理のニーズも高まっていることから、一層の医科・歯科連携を図ること。

### ③ 自施設の現状

#### <理念・基本方針等>

当院は「働く人々のために、そして地域の人々のために、信頼される医療を目指します」を理念とし、地域の方々から愛され選ばれる病院として評価されるように努力している。現在、20診療科と集中治療室及び病理部門を有している。また、治療と就労の両立支援や入院前から退院支援を行うための患者サポート窓口の充実にも努めている。さらに、産業医、開業医、企業の健康管理者等に対して情報提供を行い、連携を強化し、勤労者層に急増している生活習慣病にも積極的に対応している。

診療に際しては、1. インフォームドコンセントの実践、2. 安全かつ良質な医療の提供、3. 勤労者医療の推進を基本方針として、急性期医療を中心とした一般医療とともに、勤労者医療や老人医療、救急医療にも取り組んでいる。

#### (主な指定)

二次救急指定病院、臨床研修指定病院、愛媛県がん診療連携推進病院

#### <診療実績>

##### 【届出入院料】

- ・一般病棟入院料(7対1)
- ・特定集中治療室管理料3
- ・地域包括ケア病棟入院料1

##### 【紹介患者数及び逆紹介患者数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
紹介患者率 (%)	33.6	33.7	35.7	35.3	36.7
逆紹介患者率 (%)	34.0	35.1	37.0	35.0	30.2

##### 【平均在院日数・病床利用率】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
平均在院日数(日)	17.6	17.4	16.8	16.3	15.8
病床利用率(%)	80.6	79.1	78.4	77.5	76.1

##### 【新入院患者数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
新入院患者数(人/日)	10.0	9.9	10.2	10.4	10.3

##### 【救急搬送及び入院率】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
救急搬送患者数(人)	721	905	967	1,140	974
救急搬送入院患者数(人)	403	501	497	597	637
入院率(%)	55.9	55.4	51.4	52.4	65.4

##### 【ウォークイン及び入院率】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ウォークイン(人)	3,006	2,707	2,377	2,393	2,029
ウォークイン入院患者数(人)	536	522	486	464	452
入院率(%)	17.8	19.3	20.4	19.4	22.3

##### 【手術室手術件数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
手術件数(件)	1,652	1,725	1,582	1,517	1,354

【分娩件数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
分娩件数（件）	242	233	246	206	202

<職員数>

医師26名、看護職員192名、専門職59名、事務職員47名、技能職9名、計333名

<当院の特徴>

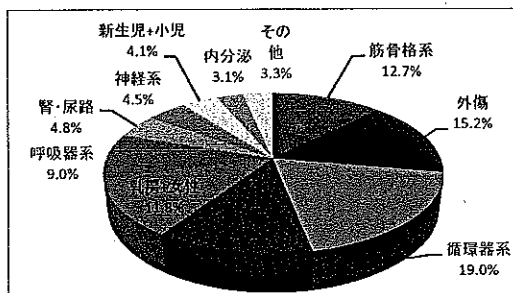
病院全体としては急性期医療を重視し、院内対象のポストアキュート（地域包括ケア病棟）を併置している急性期ケアミックス型である。

◆ 5 疾病・5 事業について

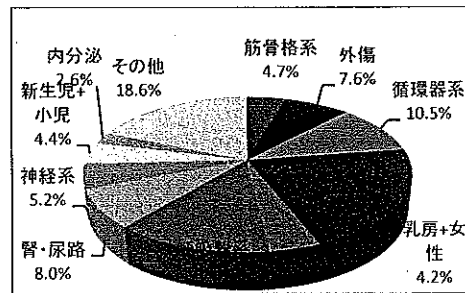
- ・がん：愛媛県がん診療連携推進病院の指定を受けて、がん診療連携拠点病院の機能を補完し、又は連携しながら、専門的ながん医療の提供や地域のがん診療の連携協力体制の構築等の役割を担っている。
- ・脳卒中：脳神経外科疾患一般、脳卒中診療全般を主とした診断・治療を行っている。
- ・急性心筋梗塞：休日・夜間を問わず常時対応できる診療体制としている。
- ・糖尿病：糖尿病患者に対して、職場復帰を含めた両立支援体制で診療を行っている。
- ・救急医療：新居浜市の「病院群輪番制病院」へ参加している。
- ・周産期医療：当構想区域には、周産期母子医療センターを設置する県立新居浜病院があり、分娩可能な民間医療機関もある。当院は休日、夜間の妊産婦の救急対応など当地域の周産期医療を補完している。また、不妊症の治療にも対応している。
- ・小児医療：一般的な小児疾患の診断・治療、各種予防接種を行っている。
- ・災害医療：東日本大震災において医療チームを派遣している。また、発生が危惧される南海トラフ大地震等の大規模災害発生時に適切な医療・看護を提供できるよう現在10名が愛媛県看護協会の災害支援ナース養成講習を受講し災害支援ナースとして登録している。

◆ 疾病構造（平成27年度DPCデータ（厚生労働省）について

- ・当院の疾病構造は、整形外科領域と考えられる筋骨格系、外傷を合わせた疾病が27.9%と最も多く、以下は循環器系（19.0%）、消化器系（12.6%）等となっている。（図1）
- ・新居浜・西条医療圏の疾病構造としては、消化器系（21.2%）が最も多く、呼吸器系（13.1%）、整形外科領域（筋骨格+外傷）（12.3%）、循環器系（10.5%）と続いている。（図2）
- ・当院はこのような疾病構造に対応できる診療体制を整備している。



（図1：愛媛労災病院の疾病構造）



（図2：新居浜・西条医療圏の疾病構造）

◆ 急性期診療領域について

整形分野、循環器系分野、産科分野を中心としている。特に筋骨格系及び結合組織の疾患及び妊娠、分娩及び産褥に関してはそれぞれ新居浜・西条医療圏内の約3割の患者を、全体で約1割の患者に対して医療を提供している。

【整形分野の主な手術症例】 (28年度実績)

椎弓切除術	49件
骨内異物(挿入)除去術(前腕)	46件
骨折靱帯手術(大腿)	45件
骨内異物(挿入)除去術(下腿)	30件
人工骨頭挿入術(股)	26件

【循環器分野の主な手術症例】 (28年度実績)

経皮的冠動脈ステント留置(その他のもの)	61件
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	12件
ペースメーカー移植術(頸静脈電極の場合)	12件
経皮的冠動脈ステント留置(急性心筋梗塞に対するもの)	11件
四肢の血管拡張術	7件

【産婦人科分野の主な手術症例】 (28年度実績)

子宮附属器腫瘍摘出術(開腹によるもの)	67件
子宮全摘術	54件
帝王切開(選択切開)	48件
流産手術(妊娠十一週まで)	36件
帝王切開術(緊急切開)	33件

◆ 回復期領域について

- ・平成28年9月に1病棟(38床)を地域包括ケア病棟へ変更した。
- ・地域包括ケア病棟は、院内ポストアキュートの受け皿として、術後等の急性期を経過した院内の患者を集約している。
- ・当該病棟の病床稼働率は85.2%(4~8月累計)。整形外科が8割を占め、リハビリ対象患者が多い。

◆ 在宅医療について

地域包括ケアシステム構築のためには、医療と介護の連携強化が必要であるが、当院においては、退院支援をスムーズに行えるように各部署に退院支援看護師を配置したところであり、在宅医療・介護推進のため、患者に対しては、MSW及び理学・作業療法士、看護師等の多職種で退院前訪問指導、退院後はケアマネージャーと看護師による退院後訪問指導を行うとともに、訪問看護ステーション看護師と共同で在宅患者訪問看護指導を行い、医療と介護の連携を図っている。在宅・介護医療に従事する職員に対しては、褥創ケア及び口腔ケア等の公開講座を開催し、指導するとともに、認定看護師による訪問技術指導を行って地域の在宅・介護医療の向上に寄与している。

なお、当院ではレスパイト入院を受け入れているが、平成29年4月には愛媛県と在宅難病患者一時入院事業(レスパイト)の委託契約を締結したところである。

◆ 勤労者医療について

当院が所属する労災病院グループ(独立行政法人労働者健康安全機構)は、設立当初から職業性外傷(せき髄損傷等)、アスベスト関連疾患などの労災疾病を始めとする勤労者の職業生活を脅かす疾病に関して、働く人の視点に立って、被災労働者などが早期に

職場復帰できるような医療を提供してきた。当院においても職業性外傷、アスベスト関連疾患のほか、振動病健診を積極的に行っており、毎年12月に愛媛県内6か所を巡回し延べ330名ほどの木材業、機械産業に従事している労働者の健診を行っている。

【アスベスト健診及び振動病健診数】 (人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
アスベスト健診数	303	275	257	255	261
振動病健診数	413	356	345	341	357

また、産業の発展に貢献する中で被災し、労災年金を受給することとなった方々が安心していきいきとした生活を営めるようにするため、相談、在宅介護、施設介護等を中心とした総合的な支援を行っている一般財団法人労災サポートセンターケアプラザ新居浜の入所者（平成29年11月1日現在入所者71名）の健康相談、診察を行っている。

さらに、近年では疾病の治療と職業生活の両立が可能となるような支援や産業保健関係者への支援を推進している。

なお、労働者健康安全機構では、働く女性の健康管理、Quality of Working Life (QWL)の向上を目的とし、「女性医療フォーラム-働く女性のヘルスサポート-」を開催しており、当院においても新居浜市において平成23年度と平成28年度にフォーラムを開催している。28年11月5日に開催した女性医療フォーラムでは、出産・育児など家庭生活と職業の両立を支援するためのシンポジウムを行っている。

#### ◆ 地域医療連携について

連携医療機関の登録医師数 64名、登録医療機関 64機関（平成29年11月1日現在）平成28年度転院先医療機関等は、360機関、3,828名であった。新居浜・西条医療圏に74.4%、その他県内医療圏に20.4%、県外に5.2%であった。

地域の医療・介護関係機関との情報交換等の懇談会・意見交換会及び市民向け公開講座は次のとおり開催している。

- ・地域医療連携懇話会開催
  - 年1回、新居浜・西条医療圏他の連携医療・介護機関、行政、消防等と情報・意見交換を行っている。
- ・地域医療連携意見交換会
  - 年2回、新居浜市内の居宅介護支援事業所、介護施設の従事者、ケアマネージャー等と情報・意見交換を行っている。
- ・在宅医療スタッフとの研修会
  - 年12回、当院の認定看護師等（緩和ケア・がん化学療法認定看護師、NST専門療法士、糖尿病認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師）が講師となり開催している。
- ・症例検討会開催 28年度17回
- ・市民公開講座

平成26年度は『新居浜市の医療を考えよう』をテーマとして、市内の基幹病院の院長、医師、消防署、市民代表者により市の救急医療の在り方についての公開討論会を開催した。

平成27年度は『災害医療について』をテーマに東日本大震災で実際に被災した福島労災病院、東北労災病院の医師、消防署、行政関係者による災害発生時の取組についてパネルディスカッションを行った。

平成28年度は『新居浜の医療・介護を考える』～住み慣れた新居浜で自分らしく暮らし続けるために～をテーマに超高齢化時代を迎え寝たきりなど要介護にならないための脳卒中予防やロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防についての講演や、行政窓口についての説明を行った。



◆ 医療人等の育成について

- ・臨床研修医については、平成15年に臨床研修指定病院の認定を受けている。
- ・専門医制度については、整形外科、内科、産婦人科、外科、脳神経外科、病理が山口大学又は愛媛大学の連携施設として登録されている。
- ・医学部学生、看護実習生をはじめ各種学校の学生の実習を受け入れており、将来の医療を担うスタッフの育成に協力している。また、救急救命士の教育実習も行っており、地域の救急救命の質の維持・向上に貢献している。

【実習生・研修生受入延人数】

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度見込
医学部学生	38	104	38
看護実習生	2,027	2,417	2,435
薬学実務実習生	54	55	0
リハビリテーション実習生	455	397	439
臨床検査実習生	0	0	0
放射線実習生	0	45	137
栄養実習生	0	10	20
医療事務実習生	25	10	10
救急救命士の教育実習	45	39	137
愛媛県内新規採用監督官研修	3	3	3

④ 自施設の課題

- ・医師不足の解消が喫緊の課題である。現在常勤医26名で医療を提供しているが、救急医療提供体制を維持するため、医師の負担軽減のためにも医師の確保が課題である。
- ・構想区域内で不足している回復期機能について、当院がどのように補完するか、また在宅医療へ機能分化が図られる中で、当院が地域でどのような役割を担うか、ということが課題となる。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- ・現在、病床機能として、高度急性期（ICU4床）、急性期（7対1 170床）、回復期（地域包括ケア病棟38床）を有する。
- ・患者の高齢化が進むにあたり、自院の強みとなっている整形分野、循環器系分野を中心に、その特徴を更に強化し、地域の急性期医療に貢献していく必要がある。
- ・地域連携を推進するため、地域包括ケア病棟においては、周辺施設からの容態急変患者を受け入れるサブアキュート機能及び地域の難病患者を一時的に受け入れるレスパイト入院機能を担っていく。
- ・在宅医療の推進の観点から、多職種による退院前訪問指導等の退院支援機能を強化し、急性期から在宅医療支援まで行う地域密着型多機能病院の役割を担っていく。
- ・長年、勤労者医療に取り組んできた労災病院グループの特色を活かした治療と就労の両立支援を地域へ積極的に展開する。

② 今後持つべき病床機能

- ・地域の救急医療に貢献している急性期領域の病棟は維持する。地域包括ケア病棟については、現在はポストアキュート型だが、将来的にサブアキュートの入院にも対応していく。

③ その他見直すべき点

- ・平成30年4月の診療報酬改定の内容を考慮し、病院の運営・経営や在り方について、引き続き検討を行う。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 平成28年度病床機能報告		(参考) 平成29年度病床機能報告		将来 (2025年度)
高度急性期	4床	→	4床	→	4床
急性期	302床		258床		258床
回復期	0床		38床 (再掲:地域包括38床)		38床 (再掲:地域包括38床)
慢性期	0床		0床		0床
(合計)	306床		300床		300床

- ・平成28年度病床機能報告は、平成28年7月実績を報告。
- ・平成28年9月、急性期44床を回復期（地域包括ケア病棟）38床に変更。
- ・現在は病床機能の変更を予定していない。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施作等
2017年度			2年間程度で集中的な検討を促進 第七期 介護保険事業計画 第七次医療計画 第八期 介護保険事業計画
2018年度			
2019~2020年度			
2021~2023年度			

② 診療科の見直しについて

・現在は診療科の見直しを考えていない。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<医療提供に関する項目>

項 目	27年度	28年度	目標値
病床稼働率	82.3%	80.9%	85%以上
紹介率	35.3%	36.7%	37%
逆紹介率	35.0%	30.2%	35%

・高額な医療機器や院内設備の老朽化の更新を定期的に行うための費用を確保するため、病床稼働率85%以上を目指す。(平成29年9月累計：78.3%)

・地域の医療機関・施設と連携し、紹介率37%以上、逆紹介率35%以上を目指す。

<経営に関する項目>

項 目	27年度	28年度	29年度見込
医業収益に占める 人材育成にかかる費用割合	0.3%	0.3%	0.3%

<その他>

・良質で効率的な医療の提供を実践し、患者サービスに努め、患者満足度調査において、満足度80%以上を目指す(平成28年度；78.6%)

#### 【4. その他】

当院では風邪や虫垂炎からがんの治療・緩和医療、さらには交通事故などの救急医療まで幅広く取り組んでおり、そのためにも医療行為が安全・安心に行なわれ、感染防御が適切に機能していることは当然である。このような医療を展開するためには患者・職員相互のコミュニケーションが重要であり、医師の約1/3、看護部長・看護師長・看護師長補佐が日本医療メディエーター協会の院内医療メディエーター基礎編をすでに受講している。